

令和6年度

学校経営方針



おおさわ学園



おおさわ学園三鷹市立羽沢小学校

校長 高橋 奨

I 教育目標

〈学園教育目標〉

地域を愛し、自らの夢に向かって主体的に学び、心身ともにたくましい、国際性豊かな児童・生徒を育成する

- めざす児童・生徒像
 - ・ 学び続ける人
 - ・ 心身ともにたくましい人
 - ・ 心豊かで共に生きる人

〈学校教育目標〉

楽しい学校

- ◎ すすんで学ぶ子 〈知〉
- 思いやりのある子 〈徳〉
- 元気な子 〈体〉

〈学園の方針〉

◎「よりよい学校教育を通じてよい社会を創る」という目標を学園・学校と地域社会が共有し、「スクール・コミュニティ」の創造を推進する。

1 確かな学力を育む（自ら課題を発見・解決する力）

- ・ 各教科等の指導を通して育成する資質・能力を明確にし、教育活動の充実を図る。
- ・ 一人一台の学習用タブレット端末を全教育活動で活用し、個別最適な学び及びオンラインでの学習活動を保障する。また、「デジタル・リテラシー教育」を推進し、自ら考え議論し、自ら実践できる力を育む。
- ・ 「おおさわ学園小・中一貫カリキュラム」を活用し、地域人財等を活用した取組の更なる充実を図り、実効性を評価・改善する。。
- ・ ユニバーサルデザインの考え方に基づく「分かる授業」を推進するとともに、児童・生徒の状況を踏まえた合理的配慮を適切に行う。

2 たくましい心と体を育む（心身ともにたくましい人）

- ・ 道徳教育の充実を図り、豊かな情操を育み、情緒の安定を図る。また、「いじめ防止対策」等との関連を図りながら実施する。
- ・ 生涯にわたり健康な自立した生活を送るための基盤となる基本的な生活習慣の定着や心身の健康・体力の向上を図る。
- ・ 「キャリア・パスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなげていく。
- ・ 小・小、小・中の交流活動、地域行事への参加・協力、ボランティア活動での交流等を進め、豊かな人間性と社会力を育む。
- ・ 大規模地震等発生時の防災計画・防災学習を学園として共有する。また、地域の防災訓練への参加等を通して、防災についての正確な知識を学び、高い意識をもつようにする。

3 協働する学園（心豊かで共に生きる人）

- ・ 児童の権利に関する条約の4つの原則を理解し、関係機関や地域と連携・協働する体制を整備し、「チームおおさわ」を醸成する。
- ・ 地域行事や地域貢献活動等への参加を通して、地域から学ぶとともに、ふるさと「おおさわ」を愛する心を育てる。
- ・ 地域の教育資源・地域人財等の効果的・計画的参画を図り、児童・生徒の「人間力」「社会力」を育む。

〈目指す学校像〉

1 子どもたち一人ひとりが伸びる学校

- 確かな学力の定着
- 豊かな心の育成
- 健やかな体の育成

2 家庭・地域社会と共に歩む学校

- 家庭・地域との協力関係の強化
- 学校を開く活動の積極的な推進

3 教職員が互いに高め合う学校

- 学習指導力、生活・進路指導力、外部との連携・折衝力、学校運営組織貢献力の向上
- 全校一致の指導体制づくり
- 学年・学級・専科経営の充実

II 学校経営の基本方針

1 子どもたち一人ひとりが伸びる学校

(1) 個別最適な学びを目指した授業改善を図る

- ① 「学びの個別化」「学びの探究化」「学びの協同化」の3つの視点を柱に、授業改善を図り、個別最適な学びの実現を目指す。
- ② 話し合い活動の活性化、自主的・実践的な活動の充実を通して、主体的に学びに向かう力の育成を図る。
- ③ 大沢地域の豊かな教育資源、地域人材等の積極的な活用を図り、学びの質の向上を図る。
- ④ 学習用タブレット端末等のICT機器を積極的に活用して、AIドリルやオンラインを取り入れた学習活動や個別最適な家庭学習等を推進し、子どもたち個々のニーズに合わせた学習活動を展開していく。
- ⑤ 「おおさわ学園小・中一貫カリキュラム」に基づき、基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、中・高学年での教科担任制、中学校との相互乗り入れ授業等に実施により、9年間を見通した継続的な指導の充実を図る。

(2) 基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、豊かな心の育成を図る

- ① 組織的な指導体制のもと、基本的な生活習慣の確立を図り、安全に配慮して行動しようとする意識を育てる。
- ② 時間を守った行動や活動、素直なあいさつや返事、整然とした靴箱の使用や温かい言葉遣いの励行等の指導を計画的・継続的に実施し、子どもたちの心の安定と主体的に学びに向かう力の素地を育む。
- ③ 児童会活動、たてわり班活動や学園の交流活動、キャリア・アントレプレナーシップ教育等の充実を通して、子どもたちの自己有能感・自己有用感を高めていく。
- ④ 特別の教科「道徳」の学習の充実を図り、子どもたちが自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きるための基礎となる道徳性を養っていく。
- ⑤ 防災・安全に対する意識を高め、自分の身は自分で守る「自助」の力とともに、共に助け合う「共助」の意識を醸成していく。
- ⑥ 学校農園活動を通して、「花育」に取り組み、子どもたちの情操を豊かにするとともに、自らがよりよい学校環境を作っていこうとする意識を高めていく。
- ⑦ 学校いじめ防止方針に則り、いじめ対策年間計画を実行し、いじめの未然防止を図り、「いじめゼロ」を目指す。また、ささいないじめも見逃さず、組織的に対応して、いじめの解消・解決を図る。
- ⑧ 校内委員会の機能の充実を図り、巡回相談や関係機関と連携しながら、教育支援を推進し、適切な指導や支援を継続する。
- ⑨ 校内通級教室「せせらぎ教室」の拠点校としての強みを生かし、通常学級と「せせらぎ教室」の教員との連携等を密にし、一人ひとりの課題に応じた指導・支援をしていく。

(3) 健康教育を充実させ、健やかな体の育成を図る

- ① 体力テストの結果を基に自らの課題を考えさせるとともに、早起き・早寝・朝御飯等の規則正しい生活習慣の推奨、日常的な体育的活動や外遊び等の取組を通して、子どもたちの健康・体力に関する意識を高めていく。
- ② 系統性を踏まえ、運動の特性等を理解した体育・保健の指導を通して、9年間を見通した体力の育成、健康で安全に生活していこうとする資質や能力を育む。
- ③ 三鷹市食育研究校として、栄養士と連携し、食に関する指導の全体計画や校内の指導体制を整備して、より安全・安心な給食の提供を目指すとともに、健康な生活の基本としての食を営む力の育成を図る。

2 家庭・地域社会と共に歩む学校

(1) 家庭・地域との協力関係をより強化する

- ① 地域・保護者に教育活動へのサポートをさらに積極的に働きかけるとともに、サポートによる学びの質の向上、学校運営等に関する成果も積極的に発信していく。
- ② 個人面談、保護者会、学校行事、学校公開、学校だより、学校ホームページなどを通して、教育目標・教育活動の浸透を図り、理解と信頼に基づいた教育活動を進める。
- ③ 子どもたちの地域行事やボランティア活動への積極的な参加を促し、ボランティア精神、地域活動への参画意識を高めていくことを通して、子どもたちを地域の中でも育てていただく。
- ④ 地域における子どもたちの安全について、地域及び関係諸機関と協力して、迅速に対応できる体制の充実を図る。特に、野川の洪水対策について、子どもの安全を第一に、地域と連携・協力して対応を進めていく。

(2) 学校を開く活動を積極的に推進する

- ① コモンズ(共有地)としての学校づくりを目指し、学校三部制を視野に入れ、児童及び保護者のニーズを把握しながら、特に「新しい放課後」(第二部)の充実を図っていく。
- ② 保護者会や学校公開日、学校だよりや学校ホームページを充実させ、保護者や地域の方々から理解され、信頼される学校づくりを推進する。
- ③ 地域の教育力を生かした体験的な学習や栽培活動をさらに充実させるとともに、環境教育や食育、勤労生産的活動へと発展させる。
- ④ 学校評価、授業評価を年2回実施し、保護者・地域、子どもたちの声を受け止め、教育活動や授業改善に生かす。

3 教職員が互いに高め合う学校

(1) 学習指導力、生活・進路指導力、外部との連携・折衝力、学校運営・組織貢献力の向上を図る

- ① コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育を進めることを通して、教員の学習指導力、生活指導力、外部との連携・折衝力、組織貢献力の向上を図る。
- ② 校内研究等を通して、「個別最適な学び」とともに「協働的な学び」の双方を追究しながら学習指導力及び学びの質の向上を目指す。

(2) 教員の力量の向上を図るとともに、全校一致の指導体制を確立する

- ① 主幹教諭・主任教諭を中核としたOJTを推進し、若手教員の授業力や児童理解力の育成を日常的に図るとともに、「チーム羽沢」としての結束力を高め、組織的な学校体制作りに取り組む。
- ② 学校経営支援部を組織し、校務の効率化を図るとともに、組織としての一体感を高め、教員のよりよい働き方を目指す。

(3) サービスの厳正を徹底する

- ① サービス研修などを通して、教職員一人ひとりに「絶対にサービス事故を起こさない。」という強い自覚をもたせる。
- ② 誤った指導観や経験の未熟さに起因する体罰や不適切な指導の根絶の徹底を図る。
- ③ 週案や週ごとの指導計画の定例提出物等の定刻・締切日時の期限を厳守する。
- ④ 年間の教材費等の私費会計の予算を保護者に示し、学年ごとに会計口座による出納管理を行い、学期ごとに適切に会計報告をする。